

Web講演会

齊藤 隆三

インターネットの普及に伴い、さまざまな情報を容易に手にすることができるようになった。学術的な論文についても図書館まで出向いて探す必要はなく、自宅のパソコンを使って簡単に読むことが可能である。また、近年では製薬会社や医療機器メーカーなどが主催する医家向けのWeb講演会が多くなり、それぞれの領域の専門家の講演を聴視することが可能になった。ことにこのたびのCOVID-19感染症の蔓延により、さまざまな学会や講演会が中止せざるを得ない状況では、Web講演会は医学的な知見を得ることに有用な手段になっている。

Web講演会ではそれを聞きたい人が講演会会場へ行く必要はなく、どこからでも参加できる。会場までの移動時間や交通費がかからないメリットがある。時間帯も多くは自由であり、決められた時間内に要領よく内容をまとめてくれるので、知識を得るには手軽な方法の1つである。ただ、パソコンの画面をジーッと見続けなければならない。自宅自粛の要請により、学校が休みになった学童は自宅にてWeb授業を長時間受けるという状況になり、そのためか、目の疲れを訴えるという者が多くなっていると眼科医が指摘している。とくに細かな文字が並んでいる図や表をみせられると、目が酷使され、判読することが困難になる。

今年の第119回日本皮膚科学会総会は、COVID-19の流行と感染防止のためWeb開催となった。京都の学会場に集まることはできなかったが、その運営にあたった学会の会頭の慶應義塾大学の天谷雅行教授をはじめとした関係者のご尽力に感謝申し上げたい。講演の一部を自宅のパソコンで聴講したが、周囲に気兼ねせず聞くことができ、新しい知識を吸収できるという点では大変便利になった。ウィズコロナの世ではこのような形式の学会も1つの方法であるが、さすがに学会の雰囲気味わうことは無理であろう。聴衆を目の前にしての講演とは異なり、演者は淡々とスライドを説明しており、会場の反応により演者の熱が入り、ときに雰囲気を和ませるように話が脱線したりするようなことはおこらない。また、学会では久しぶりに会うことのできる友人たちとの話し合い、ときには学問的な話を聞くことも仕事のヒントとなり、講演会とは別な学会の意義があることも忘れてはならない。

この状況下においてWeb講演会の有効利用は必要なことであり、大いに活用したいが、学会については、新しい生活様式を踏まえた開催の在り方が問われている。